

レコード人気 若者にも

生産数 9月末で昨年超

温かみある音色 再評価

アナログレコードの人氣がじわりと復活している。デジタル全盛の時代に温かみのある音色が見直され、若年層にも愛好者が広がっている。3日は「レコードの日」。音楽の楽しみ方の変化は関連産業にも波及し始めた。

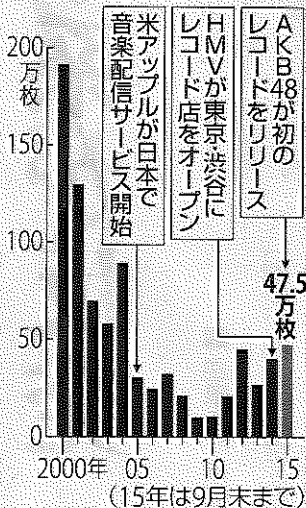
(岩崎拓)



若者にもレコード愛好者が増えている(東京都武蔵野市の「クアトロラボ」で)＝高橋はるか撮影

●国内のレコード生産は回復傾向にある

※日本レコード協会の資料を基に作成



「レコードの日」は11月1日、オープンから1年を迎えた。ファッショニブル大手のラルコが「音楽をゆつくり楽しめるスペースを提供したい」と開設し、週末には大勢の若者らでにぎ

わう。ジャケットも魅力。昨年8月にオープンした「HMVレコードショップ渋谷」(東京都渋谷区)。約8万点のレコードをそろえ、9980円(税込み)のプレーヤーと一緒に買い求める人も多い。3日にはレコード初心者向けに、レコードプレーヤーの使い方や聴き方のセミナーを開く。

埼玉県行田市の女性(37)は「音に臨場感があり、大きなジャケットも絵画のようで芸術的」とレコードの魅力を語る。「レコードの日」に合わせ、矢野顕子さんのレコード65作品も一斉に発売さ

れる。レコードは1970年代後半のピーク時に国内で年間2億枚近く生産された。82年に登場したCDに音楽鑑賞の主役を奪われて生産が急減し、米アップルがインターネットでの音楽配信を始めたことが追い打ちをかけた。

転機は2012年に発売されたビートルズの復刻レコードだ。レコードの魅力が再び注目され、その後もジャズやロックの名盤の復刻版が相次いで発売された。今年に入り、福山雅治さんやAKB48などの人気アーティストが相次いで新作をレコードで発売。9月末時点で、すでに昨年を上回る47万枚超が生産されるまで持ち直している。

J-POPでも新作メーカーも対応を急いでいる。レコード針のナガオカ(山形県東根市)は、月間生産が10万本を切る状態が続いていたが、昨年から

は20万本近くまで回復した。最盛期だった1980年代前半の120万本には及ばないが、「需要が右肩上がりなので、設備も人員も増やした」(鈴木正拓社長)という。

は20万本近くまで回復した。最盛期だった1980年代前半の120万本には及ばないが、「需要が右肩上がりなので、設備も人員も増やした」(鈴木正拓社長)という。